

## 令和2年度我孫子市「人・農地プラン」検討会 書面開催結果

1. 会議名称 我孫子市「人・農地プラン」検討会
2. 開催期間 令和3年3月1日（月）～3月19日（金）
3. 議題

### (1) 我孫子市「人・農地プラン」の変更について

#### 【概要】

我孫子市全域を対象として平成24年11月に作成された「人・農地プラン」について、現在位置付けられている経営体のうち、青年等就農計画の変更認定や農業経営改善計画の再認定を受けた経営体について内容の変更を行なうにあたり、意見照会を行なった。

#### 【意見照会結果】

意見なし…12件 意見あり…1件

#### 主な意見内容：

○各経営体が現在どの地区で営農しているのか記載があるとよいと思う。

#### 【事務局対応】

営農地区の記載については様式の見直しが必要であることから、次回更新時までに対応を検討し、現行様式にてプランを変更することとした。

### (2) 江蔵地地区における「実質化された人・農地プラン」の作成について

#### 【概要】

我孫子市では（1）のとおり市内全域を対象とした人・農地プランが作成されているが、各地域の詳細な状況までは把握できていなかったため、地域ごとの詳細なプランを作成する「実質化」の取り組みを本格的に開始した。

そこで今回、令和2年度において作成を進めている江蔵地地区の「実質化された人・農地プラン」について、内容を精査するため意見照会を行なった。

**【意見照会結果】**

意見なし…10件　意見あり…3件

主な意見内容：

- 江蔵地地区の農地所有者、農地耕作者からの意見を見る限り、貸す方も借りる方も同様に負担があるという意見はもつともであり、国や県等の補助制度がもっと充実してほしいと思う。
- 一方的な地代の引き下げについて所有者からの意見もあることから、耕作者側と所有者側両方の視点を取り入れた表現にすることを検討してほしい。
- 田の団地化、集約化について、確かに飛地のままより効率は良くなるが、所有者が「先祖代々より受け継いだ土地なのだから」と思うゆえに進まないこともあると思う。

**【事務局対応】**

委員からの意見を踏まえプランを修正し、3月中に市HPにて公表することとした。

(3) 令和3年度以降の人・農地プラン実質化の取り組みについて

**【概要】**

令和3年度以降の実質化の取組について、市内農業者からの要望や、大規模経営体が多く参入している営農地区を鑑みて検討する中で、取組予定地区及びスケジュール（案）について意見照会を行なった。

**【意見照会結果】**

意見なし…11件　意見あり…2件

主な意見内容：

- 北新田地区でもアンケートを実施してほしい。北新田地区は今のところ耕作放棄地は少なく、水田については中心経営体が複数おり今後集積・集約化が進むと思われる。しかし畑については今後リタイアする農家が増えると思われ、耕作放棄地の増加が懸念されるため、露地野菜等をメインとした中心経営体の増加が課題である。
- 我孫子市としての人・農地プラン実質化の目標設定（例：5年以内に市内全地区でアンケートを実施する、10年後までには全地区での中心経営体の位置付けを目指す 等）を行ない、我孫子市全域の地図上で、何年度にどの地区での取組を考えているか分かるとよいと思う。

#### 【事務局対応】

- ・北新田地区については、市外、県外の所有者が混在しておりアンケートの回収率が悪くなることや、ヤミ耕作（相対）の農地が多く、耕作者の探索が困難となることが想定される。そこで今後、地区全体を3～4程度のエリアに分け、複数回のアンケートにより状況を把握する方法を検討する。
- ・各地域の今後の方針を記載した簡易な地図を作成し、プランの周知活動や検討会の資料として活用できるよう準備する。

※取組予定地区およびスケジュール（案）は、「人・農地プランの実質化に向けた工程表」として編集し、3月中に市HPにて公表することとした。

#### （4）委員からのその他意見

##### <実質化全般について>

- 今回実質化を進めた中で、耕作者と所有者との信頼関係がいかに重要であるかが示されたと思う。
- 実質化を推進する中で、アンケートには表れない耕作者及び所有者の意向があることに留意する必要がある。（文書だけでなく直接聞き取り等を行なうことが重要）
- コロナ禍では難しい面もあるが、実質化の取組内容を周知するため、地区ごとに検討会委員や農業委員、農地利用最適化推進委員が中心となって説明会を行なってはどうか。
- 地図化による現況把握の際に、各地域の農地の形状や高低差の有無、荒廃状況や水利状況を耕作者への聞き取りにより確認することが重要である。

##### <その他>

- 担い手農家の多くに後継者がおらず、新規就農者も露地野菜等による経営を行なっており、水稻経営者の将来が危ういと感じる。
- 稲作の技術継承により新たな水田の担い手を育成したり、畑作のみの新規就農者等が稲作に挑戦できるような体制づくりができればと思う。（その際、指導農家のあっせん方法や、設備投資への支援について考える必要がある）
- 六次産業化を進めている経営体が少ないので、地域活性化のためにも参入支援を進めてもらい、魅力ある名産が出来てほしい。
- ここ数年でカメムシ被害が増加しているため、空中散布を実施してほしい。現に我孫子市北新田と柏市布施では被害米の数がかなり違う。